

駅前周辺の賑わい創出・空き施設活用について

青谷地域未来プランにおいて、「⑤地域と連携した定住人口の増進」の柱の一つに「駅前周辺の賑わい創出(青谷駅、青谷賑わいの場など)」を掲げており、長期的な展望に基づく施策検討が必要となるが、その手法について未来会議で意見を伺う。

1 地域未来プランの内容

青谷地域の賑わいの中心となる、JR 青谷駅および青谷賑わいの場について、駅舎の再編や旧青谷上寺地遺跡展示館の利活用、青谷ようこそ館の活性化などを踏まえた、長期的な展望に基づく賑わい創出策を検討します。

2 青谷賑わいの場

昭和35年創業の(株)岸本三光堂の工場用地であったが、平成4年の工場移転に伴い、空き地となった。

当時の青谷町が用地取得し、地域の賑わいの場として整備。平成 26～29 年度には都市再生整備計画事業により駐車場整備、商業施設誘致を経て現在に至る。

《主な施設》

施設名	建築年	用途	備考
青谷ようこそ館	平成 10 年	農産物加工販売・お土産・飲食・観光案内	令和7年4月より指定管理者変更(あおや未来づくり協議会)
青谷上寺地遺跡展示館	平成 13 年	文化財展示・観光	令和5年 11 月で閉館。令和6年 11 月～令和7年 12 月は史跡公園分室利用。
ドラッグストアウェルネス青谷店	平成 26 年	医薬品・雑貨・食品・化粧品・日用品販売	商業施設誘致により平成26年 11 月オープン
コインランドリーあおぞら青谷店	平成 26 年	ランドリー	商業施設誘致により平成26年 12 月オープン
青谷駐在所	平成 29 年	警察・防犯	青谷駅前にあったが、都市再生整備計画により移転
鳥取市西商工会館(青谷町商工会館)	昭和 59 年	商工会	平成 28 年 5 月で閉所。土地建物一体での売却手続き中。

3 JR 青谷駅

人口減少、自動車交通の発達による利用減となる中、JR 西日本が将来の維持管理コストの削減を図るため、駅の無人化や駅舎設備の更新など、全社的に駅の運営体制の見直しを実施することが発表されており、青谷駅も対象となっている。

【JR 青谷駅の概要】

- ・明治 38 年(1905 年) 開業
- ・平成 29 年 都市再生整備計画事業により駅周辺改修工事(公衆トイレ、バス待合所、駅前車両誘導路 等)
- ・平成 31 年 JR 西日本 駅の運営体制見直し発表
 «令和2年～令和17年の15年間に築60年以上の駅舎を順次更新していく»
- ・令和2年 JR から鳥取市に対し駅舎に対する提案(以下3通りのいずれか)
 - ①JR による更新及び維持管理
 - ②市へ無償譲渡し市による整備及び維持管理
 - ③JR と市の共同整備。市が維持管理
- ・令和4年 有人窓口廃止、無人化
- ・令和7年 交通系 IC カード利用開始

4 今後のエリア展望について

【長期展望にかかる意見集約】

様々な媒体で意見を集約し、総合支所で方針を決定する。

<意見集約(案)>

- ・青谷地域振興未来会議
- ・ワークショップ(賑わいの場の活用を考える、まちづくり等)
- ・アンケート(市民アンケート、web アンケート等)

【旧青谷上寺地遺跡展示館の利活用】

当該施設は青谷上寺地遺跡の展示等の用途のため、現在鳥取市文化財課が所管。

令和6～7年は総合支所改修工事のため、青谷かみじち史跡公園分室の仮事務所として使用しているが、工事完了後は新庁舎に再移転するため、令和8年以降の利活用については未定。

地域で利活用の要望があれば、市として対応検討していく。

【商工会館の利活用】

当該施設は鳥取市西商工会が所有する建物。土地は鳥取市所有。

平成 28 年に西商工会の組織改編により、閉所となっている。今後の方針として、商工会が土地を市から買い上げ、土地建物一体として売却する手続きを令和6年度から開始しており、売却手続き中。商工会としては先ず会員あてに案内を行い、会員の希望が無い場合会員外へ一般公募により売却譲渡する考え。

売却までの期間に一時的な利用希望等に対しては、柔軟に対応している。(青谷ようこそ館が開催した納涼祭で、商工会館を利用したお化け屋敷を実施など)

